

日本臨床発達心理士会 中国・四国支部会報

Japanese Association of Clinical Developmental Psychologists

第11号(2008年8月5日発行)

発行 日本臨床発達心理士会中国・四国支部
編集 日本臨床発達心理士会中国・四国支部会報編集委員会
事務局 〒739-8524 広島県東広島市鏡山1-1-1 広島大学大学院教育学研究科幼児教育学研究室
TEL:0824-22-7111(内線5680) FAX:0824-24-5261

目次

- 1 ご挨拶
- 2 日本臨床発達心理士会中国・四国支部第6回総会のご報告
- 3 日本臨床発達心理士会中国・四国支部第13回研修会のご報告
- 4 日本臨床発達心理士会中国・四国支部第14回研修会のご案内
- 5 日本臨床発達心理士会中国・四国支部第15回研修会のご案内
- 6 編集後記



1 ご挨拶

日本臨床発達心理士会 中国・四国支部
支部長・幹事 猪木 省三

暑中お見舞い申し上げます。

中国・四国支部の会員の皆様には、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

おかげさまで第6回の総会は6月7日に無事に終わることができました。皆様のご協力に感謝いたします。総会の内容については、のちの総会報告をご覧ください。また、同日に開催しました支部研修会は、前支部長山崎先生によるこれまでの活動の総括と今後の展望、三宅先生・倉盛先生による保育支援ニーズに関する調査結果に基づくご報告、副支部長田中先生による幼児教育の立場からの臨床発達心理士の活動について話題提供をいただき、また、広島市教育委員会の名和原先生、さらに八島先生からは指定討論者として発言いただき、本支部の活動を考える上で有意義なシンポジウムとなりました。くわしくは、のちの研修会報告をご覧ください。

さて、今回の会報でご案内しております通り、来る8月31日に、岡山市で支部研修会を開催いたします。また、10月4日には、日本発達心理学会の企画委員会及び中国・四国地区懇話会と本支部との共催で、徳島市での研修会も予定しております。折角の機会ですので、ぜひ多くの会員の皆様にご参加いただきますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

本支部の活動も6年目を迎えました。これまでは会員の研修を中心とした活動を行って参りましたが、今後は、会員の皆様のさまざまな活動の交流の場を設けたり、支部として何らかの形で社会に貢献する活動も企画していければと考えております。皆様から、支部の活動について積極的にご提案をいただければありがたく存じます。

2 日本臨床発達心理士会中国・四国支部第6回総会のご報告

2008年度中国・四国支部総会を以下の通り行いましたので、ご報告いたします。

1. 日 時 2008年6月7日(土)13:00~14:00

2. 場 所 広島オフィスセンター

3. 議 題

(1) 2007年度活動報告

1. 2007年度支部総会の開催 2007年度活動計画及び予算について審議・了承
2. 研修会等の開催 5月(広島)・9月(鳥取)・1月(愛媛)に支部主催の研修会を開催
3. 会報の発行 研修会報告などを掲載し2回発行
4. ホームページによる情報発信
5. 役員会の開催

(2) 2007年度会計報告

会計監査2名の監査報告とともに、下記の通り決算報告は承認されました。

2007年4月～2008年3月会計報告

科目	予算額	決算額	増額
収入の部			
支部会費	166,000	216,000	50,000
利子	15	474	459
臨床発達心理士会補助金	200,000	0	-200,000
仮計	366,015	216,474	-149,541
前年度繰越金	547,177	547,177	0
合計	913,192	763,651	-149,541

科目	予算額	決算額
支出の部		
津川先生謝金(5/26)	30,000	30,000
津川先生旅費(5/26)	15,000	12,360
水代(5/26)	0	236
タクシー代(5/26)	0	1,000
会議室費(5/26)	5,000	2,680
郵送代(5/16)	15,000	9,360
(5/28)		270
(8/10)		3,200
ハガキ(8/9)	6,000	1,200
切手代(12/20)		4,000
封筒代(6/7)	0	3,980
神谷先生謝金(9/8)	30,000	5,000
神谷先生交通費(9/8)	0	25,280
寺川先生謝金(9/8)	0	5,000
吉松先生謝金(1/12)	30,000	30,000
事務手伝い謝金(5/28)	0	5,000
仮計	131,000	138,566
次期繰越金	782,192	625,085
合計	913,192	763,651

(3) 2008年度活動案計画

1. 総会の開催
2. 研修会の開催
3. 会報の発行, ホームページによる情報の発信
4. 事例報告会等の開催 各地域での開催の活性化
5. 役員会の開催
6. その他必要な活動

(4) 2008年度予算案

下記の通りの予算案が提出され、承認されました。

科 目	予算額
収入の部	
1. 支部会費	216,000
2. 利子	15
3. 臨床発達心理士会補助金	0
仮計	216,015
前年度繰越金	625,085
合計	841,100

科 目	予算額
支出の部	
1. 研修会等開催費	250,000
2. 郵送費	25,000
3. 事務費	3,000
4. 事例報告会等経費	45,000
5. 役員会等経費	50,000
6. 予備費	20,000
仮計	393,000
次期繰越金	448,100
合計	841,100

以上、総会出席者13名、委任状74名、計87名(支部会員総数136名)で、過半数の承認により総会は成立致しました。

3 日本臨床発達心理士会中国・四国支部第13回研修会報告

2008年6月7日(土)、広島オフィスセンターにおいて、中国・四国支部第13回研修会(シンポジウム)が開催されました。シンポジウムは、「臨床発達心理士の役割を考える～これまでの歩みを確認し、これからの活動を考える～」をテーマに行われました。山崎晃先生(明治学院大学)、田中昭夫先生(島根大学)、三宅幹子先生(福山大学)、倉盛美穂子先生(鈴峯女子短期大学)の4名から話題提供がなされ、指定討論者の名和原恵理先生(広島市教育委員会)・八島美菜子先生(山陽女子短期大学)および参加者との討論を通して、今後の支部のあるべき姿をどうイメージするかを考える機会となりました。司会・進行役は猪木省三先生(県立広島大学)に務めて頂きました。参加者は22名でした。

山崎晃先生からは、臨床発達心理士会発足から今日までの支部の歩みと全国的にどのような活動が行われてきているかについて、また、臨床発達心理士と行政との連携が上手くなされている事例についても話題提供を頂きました。



田中昭夫先生からは、臨床発達心理士は保育現場においてどのような支援が可能であるか、また、日常的に保育現場に関わって臨床発達心理士はどのような役割を果たしてきたのかについて話題提供頂きました。

三宅幹子先生と倉盛美穂子先生からは、臨床発達心理士会の保育支援プロジェクトで行った「保育支援の実態とニーズ」に関する全国調査結果から明らかになった今後の課題について話題提供がありました。三宅先生からは幼稚園・保育園における情報の入手と活用方法について、倉盛先生からは関係機関との連携について話題提供をして頂きました。

指定討論者の名和原先生からは、幼児教育現場および行政でのご経験に基づき、支援との関わり方の持ち方について、また、臨床発達心理士と行政との関係のあり方・目指すべき方向についてご指摘をいただきました。八島先生からは、今日までの支部活動に関わった経験から、今後の支部のあるべき姿をどうイメージするかについて具体的なご指摘をいただきました。

参加者数は22名、臨床発達心理士会各支部主催の研修会として資格更新ポイントは1ポイント(3時間)でした。

4 日本臨床発達心理士会中国・四国支部第14回研修会のご案内

中国・四国支部の活動として次のような研修会が開催されます。何かとお忙しい時期ですが、たくさんの会員の方々のご参加をお待ちしております。研修会の参加者ポイントは(1)区分1ポイント(3時間)です。

1. 日時：2008年8月31日(日) 13:15～16:15
2. 場所：ゆうあいセンター(岡山県ボランティア・NPO活動支援センター)
〒700-0807 岡山市南方2丁目13-1
岡山県総合福祉・ボランティア・NPO会館 2階 TEL：086-231-0532
http://www.youi-c.com/01youi/room_riyou/r01_ken.html
3. 講師：平山 諭先生(倉敷市立短期大学教授)
4. 演題：「脳科学を活用した発達障害症状を抑える21のスキル」

ADHD症状はリタリン(塩酸メチルフェニデート)の作用などから、ドーパミンとノルアドレナリンの分泌を高めることにより、PDD症状は抗うつ剤の作用などから、セロトニンの分泌を高めることによりそれぞれ改善されると考えられます。先生は、こうした神経伝達物質を、セラピストや教師の「言葉」と「表情」で高めるスキルを研究されてこられました。今回の研修では、特に発達障害児のいるクラスの授業スキルを、映像を用いて具体的に解説頂きます。また、シナプスにおける神経

伝達物質の効率化・高速化を大豆由来のリパミンP S（リン脂質）で可能にしたご研究についてもお話し頂く予定です。

5. ゆうあいセンターへのアクセス

- タクシー 岡山駅より約5分
- 徒歩 岡山駅より約15分
- 路線バス JR岡山駅より
岡電バス・中鉄バス・宇野バス
利用でも可能

駐車場台数が限られているため、なるべく公共交通機関をご利用下さい。



5 日本臨床発達心理士会中国・四国支部第15回研修会のご案内

少し先になりますが、10月に「日本発達心理学会企画委員会」及び「日本発達心理学会中国・四国地区懇話会」と本支部との共催で次のような研修会が開催されます。研修会の参加者ポイントは（1）区分1ポイント（3時間）です。

1. 日時：2008年10月4日（土） 14:00～17:00
2. 場所：徳島大学総合科学部 1号館 301教室
〒770-8502 徳島市南常三島町1丁目1番地

TEL：(088)656-7103

アクセスは下記のアドレスを参照

<http://www.tokushima-u.ac.jp/category/0010863.html>

3. テーマ：特別支援教育支援へのアプローチ —量的研究と質的研究の視点から—

概要： 本シンポジウムでは、話題提供者からWISC-III、K-ABCなどの発達検査結果が特別支援教育にどのような情報を提供でき、どのような支援プログラムを計画できるのか、対象者の行動観察からどのような解釈が可能であるのかという資料を提出頂き、実際の支援、その成果等も合わせて報告していただきます。指定討論者からは、発達検査からどのような情報を読み取るのかを検査方法なども含めてご説明いただき、2つの報告についてコメントを頂きます。それらに基づいて有意義な討論を行いたいと思います。

話題提供者：杉木理佳先生（NPOこどもの発達研究室きりん）

「自閉性障害をもつ男児への言語的・非言語的支援～発達検査に基づいて～」

西村健一先生（香川大学教育学部附属特別支援学校）

「発達障害が疑われる幼児へのコミュニケーション指導～命令遊びを通して～」

指定討論者：大六一志先生（筑波大学大学院人間総合科学研究科）

6 編集後記 ～HPをご覧ください～

中国・四国支部会報第11号いかがでしたか。

支部ホームページ（<http://www.geocities.jp/jacdpcs/>）には、研修会などのご案内、支部会報のバックナンバー、支部規程などを掲載しております。ぜひご活用ください。

中国・四国支部では、今後も会員相互の情報交換等に役立つような紙面作りをしたいと願っております。引き続き、会員の皆様から「会員紹介」「耳より情報」など、自薦他薦を問わずご投稿を広く募っております。気軽に奮ってお寄せ下さい（宛先：yashima●sanyo.ac.jp：ご利用の際は、●を@にかえてご入力ください。）。（編集委員会）

